

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トマトメロン集出荷施設	階数	地上2F
建設地	田原市	構造	S造
用途地域	用途地域なし	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,650時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2015年2月8日
敷地面積	7,546.00 m <sup>2</sup>	作成者	高阪照和
建築面積	4,168.94 m <sup>2</sup>	確認日	2015年2月8日
延床面積	6,934.05 m <sup>2</sup>	確認者	高阪照和

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 96%  
 ③上記+②以外の 96%  
 ④上記+ 96%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	準独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
<b>1.1 騒音</b>								
1 室内騒音レベル				-	-	-	-	-
2 設備騒音対策				-	-	-	-	-
<b>1.2 遮音</b>								
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
<b>1.3 吸音</b>								
<b>2 温熱環境</b>								
<b>2.1 室温制御</b>								
1 室温				-	-	-	-	-
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	-
3 外皮性能				-	-	-	-	-
4 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	-
6 個別制御				-	-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	-
8 監視システム				-	-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>								
<b>2.3 空調方式</b>								
<b>3 光・視環境</b>								
<b>3.1 屋光利用</b>								
1 屋光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 屋光利用設備				-	-	-	-	-
<b>3.2 グレア対策</b>								
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	-
2 屋光制御				-	-	-	-	-
3 映り込み対策				-	-	-	-	-
<b>3.3 照度</b>								
<b>3.4 照明制御</b>								
<b>4 空気環境</b>								
<b>4.1 発生源対策</b>								
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
2 アスベスト対策				-	-	-	-	-
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	-
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>								
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4 給気計画				-	-	-	-	-
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43			<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>				<b>1.5</b>	0.40			<b>1.5</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
1 広さ・収納性				-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画				-	-	-	-	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>				<b>1.0</b>	0.50			
1 広さ感・景観				-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				1.0	1.00	-	-	-
<b>1.3 維持管理</b>				<b>2.0</b>	0.50			
1 維持管理に配慮した設計				2.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-	-
3 衛生管理業務				-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.31			<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>				<b>3.0</b>	0.48			
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.0</b>	0.33			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	-

2.4 信頼性	1 空調・換気設備			3.4	0.19	-	-	
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
	3 電気設備		②	4.0	0.20	-	-	
	4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
	5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	
	6			4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				4.2	0.29	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.6	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.0
1 建築物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.5	0.29	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				5.0	0.43	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0	-	-	-	-
集合住宅の評価				5.0	-	-	-	-
ERR=63.6%				5.0	-	-	-	-
4 効率的運用				3.0	0.29	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.2	0.63	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組				4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	-	
2 振動				3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

**重点項目スコアシート**  
トマトメロン集出荷施設

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち(2011年度版)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011v.1.4\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.13	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.12	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>広くは無い敷地に生産者が搬入するトマトメロンの荷受けスペース、またそのトマトメロンを選別の上箱詰めする集出荷室(工場)、出荷のためのトラックヤードを効率的に配置した。またその管理を行う事務所部分をコンパクトにまとめた。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>評価対象外</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>天井高を確保することにより「ゆとり」ある空間を目指した。耐用性においては最低限の基準値をクリアーすることを考えながら、経済性に目を向けた。設備・電気については可能な限り系統化するとともに、レイアウトの更新性にも配慮した。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>緑豊かな地域の中にあることから建物高さを抑え、地域の環境に溶け込む事を中心に考えた。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>自然エネルギーの利用は経済的に困難であるため、建物の熱負荷を抑えることを考慮した。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>雨水の再利用は考えられなかったが、節水については心掛けた。汚染物質を含まないF☆☆☆☆、低VOC材料の利用に努めた。またフロン、ハロンガスの利用は行わない。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>温暖化、環境への配慮については標準レベルにある。建物の高さを抑えたため風害、日影についての周辺への影響は少ない。光害についても周囲は十分な空地があり、発生しないものと考えられる。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>